第 103 回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成 26 年 3 月 10 日提出）

基礎力テスト報告会

【趣　旨】

各学部 1 年生を対象に昨秋実施した基礎力テスト（ＰＲＯＧ）の分析結果を報告します。全体傾向とともに学部毎の特徴や他大学との比較等を踏まえて、本学 1 年生のジェネリックスキルの状況と今後の教養教育の課題を整理します。

【対　象】

全教職員

特に教務委員会委員・教養教育専門部会委員・評価・FD 教育改善専門部会委員

【日　時】　平成 26 年 2 月 17 日（月）16:00～17:30

【場　所】　長崎大学文教キャンパス　事務局 3 階　第 2 会議室

【講　師】　株式会社リアセック　代表取締役　松村直樹氏・主任研究員　石川純一氏

【主　催】　教務委員会

【企画・運営】　評価・FD 教育改善専門部会

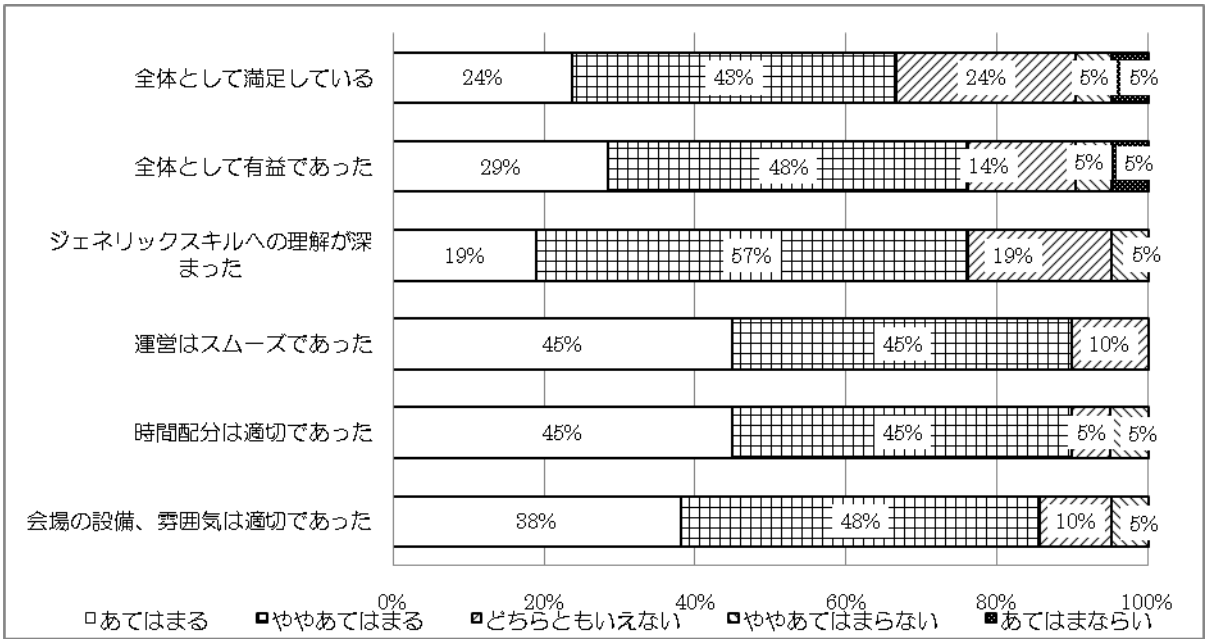
【参加者】

26 名（受講証発行対象者：25 名（教員 22 名　事務職員 3 名）途中退出 1 名を除く）

所　　属	人　数
教育学部	4
経済学部	3
医歯薬学総合研究科（保系）	2
医歯薬学総合研究科（歯系）	2
医歯薬学総合研究科（薬系）	1
工学研究科	3
水産・環境科学総合研究科（環境）	2
水産・環境科学総合研究科（水産）	3
保健・医療推進センター	1
情報メディア基盤センター	1

言語教育研究センター	1
学生支援部教育支援課	3
計	26

【参加者からの評価】（回答者：21 名）



○ 今回参加なさって、何か疑問点や感想、ご意見などがありましたら、ご記入下さい。

- 経年変化の結果が知りたいところで、今後本テストを（せっかく始めたのだから）継続すべきとは思います。しかし、同時にこの「ＰＲＯＧ」というテストの信頼度には若干の疑問があります。（失礼な言い方ですけど）
- ＰＲＯＧで本当にジェネリックスキルが培われるか（測定できるか）疑問です。
- コンピテンシーの採点で若手ビジネスパーソンにおける多寡で◎か▲を決めることの妥当性や２者択一の信頼度には疑問あり。設問の因子分析結果を知りたい。
- 結果の傾向紹介だけであれば資料のみで十分。もっとつっこんだ解析や改善に向けての具体的案の提案紹介などを含むべきと思う。

○ 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入下さい。

- ジェネリックスキルを測定することを真剣に考えるべき。
- 寒い

【総　括】

平成２４年度における初回の報告会では、賛否両論が記録に残されている。これに対して、平成２５年度の今回の報告会においては、PROG そのものの意義などに対する懐疑的な感想が目立った。たとえば、比較対象群として、文系・理系の全体、学部・学科、などを選定していること、３５歳の部下を持つ優れた実績のあるビジネスパーソン 4,000 人から得られた値を、学生のコンピテンシーの参照基準としていること、などである。

データの蓄積が乏しい段階においては、集計やかんたんな分析結果の紹介にとどまらず、質疑応答のなかでいくつか紹介された実例が報告されれば、建設的な報告会になるかもしれない。たとえば、他大学において、あるＰＢＬの事前事後分析の結果、コンピテンシーの要素として伸びたもの・そうでなかったものが実例としてあるとの回答が示された。そのような実例の詳細が提供されれば、個々の教員なりテーマ責任者なりが、目の前に与えられたデータを参照することで、学部・学科・モジュールの運営の際に一定の指針となりうる。

（文責：林　徹）